

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年9月27日（木） 午後7時～8時50分  
会 場 中央二丁目会館（中央二丁目町内会）  
天 気 くもり

参加者 42人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆この官舎公園の中と付近には以前3つの防火用水があったのに、今は一つも無くなってしまった。消防の人から中の水は大変良い水質だったと聞いている。災害の時などはトイレや洗濯の水として使えたはずである。なぜ、つぶしてしまったのか。
- ◆水漏れがあり6割程度しか溜められない状況だった。自転車などを捨てられたりして、何を入れられてしまうか分からない危険な状況だった。そんな中、つぶして欲しいという要望がかなり多くあったため、その要望に応えた形である。
- ◆つぶすときに私は立ち会ったが、蓋できちんと密閉されている状態であり、本当にきれいな水だった。せっかく防火用水として守られてきた経緯があったのに、今後、大きな災害があることを考えると非常にもったいなかったと思う。
- ☆確かに大地震の際に一番怖いのは火災だと思う。3.11の時は倒壊や火災よりも津波であったように、揺れの周期によって被害状況はさまざまである。大きな地震により水道管がダメになったら消防が到着しても水が出なかったり、いろいろなことが起こるだろう。今ある防火水槽の老朽化も市内各所で進んでいる。しかし、ハード面の整備も必要であるが、消防団0Bなどのマンパワーも大変貴重な力になるので、是非、そういった方々の力をお借りしたい。
- ◆この地域には病院が少ないと思う。総合病院は川のそば。あそこまで辿り着けるか分からない。総合的な大規模病院はできないのか。
- ☆志木市の市民病院の状況でも分かるように、公的な病院の建設は難しい状況である。しかし、誘致については考えられる。
- ◆大きな病院がふじみ野市に来たいと手を挙げても、地元の医師会から反対が出ると聞いたので、そういうことが無いようにして欲しい。
- ☆地元の医師会と連携が取れるような誘致の仕方を考えたい。
- ◆上福岡駅西口にあるような、小さな病院の集まりが一箇所に集中していると良いのではないか。いろいろな診療科目が集まっているクリニックモールのようなものならつくりやすいのではないか。
- ☆小児救急を志木市民病院はやめてしまったが、この地域の方々もあの小児救急にはお世話になったと聞いている。しかし、本来、志木は朝霞医療圏域であり、ふじみ野市は川越医療圏域に属しているので、埼玉医療センターへ行かなけれ

ばならないが、埼玉医療センターは会計の点など非常にやっかいなため、皆さん志木の市民病院を目指していたという話。こういった状況など私からも埼玉医療センターの院長にお話したことがあるが、責任を持ってこの圏域の皆さんの命を守ると言っていた。

◆震度6弱の大地震が起こった際の、市内の道路事情をどう想定しているのか。

☆地震の種類によってもどんな地震を想定するか違いがあるが、市内でも緊急輸送路として指定している道路に関しては、壊れる恐れはないと思っている。また、液状化の心配も市内には無い。地震はいつどんな状況で起こるのかによって、全然違う想定が成り立つ。どんな時間帯なのかにより、道路に対する考え方はまったく違ってくると思う。

◆どんな状況においても市において統制を図ってほしい。

☆車の移動について指示を出すケースもある。鍵は付けたままで避難するように等の啓蒙的な周知はしていきたいと思う。

◆家屋などの倒壊よりも道路状況の麻痺は怖いと思う。

☆地震が平日起これば市役所に職員も大勢いるし、対応出来る部分は多いと思うが、休日だったり、夜間だったり、夏だったり、冬だったりとその時の状況により想定被害はさまざまである。北風が強い冬場の夕飯どきなどであれば、あちこちから火の手が上がるのが想定される。そんな時、この辺の皆さんの指定避難所である福岡中学校の方で火が燃えていれば、避難所であっても福岡中学校を目指すことはない。まずは、身近な場所で身の安全を確保してほしい。その安全が確保できた後に、近所の方の姿が見えないなどの状況に対応してほしい。共助の部分で助け合っていたきたい。指定避難場所はまず一目散に逃げ込むところではない。まず身の安全を確保し、落ち着いてから自宅へ帰ることができない状況の時に向かうところということを自覚しておいてほしい。そして、地震は自宅に居るときばかり起こるとは限らないことも意識しておく必要がある。買い物に出ている先で被災することもあるだろう。その時でもまず身近な場所で、身の安全を確保していただきたい。財産も大切かもしれないが、まず命を守ること。これが一番大切なことである。このようなメッセージを皆さんに発信するために、私も全地域、タウンミーティングに廻らせていただいている。地域の皆さんでどれだけ助け合いができるか、昼間地域に残っている人達での協力態勢が重要だと思う。それと、ちょっとした備えでそれが大きな力を発揮し、何人もの人を救えることになるかもしれない。垂木やバールをテコにして家具などの倒壊の際に挟まっている人を助けられると聞いている。下足を枕元に置いておくのも、ちょっとした備えだと思うが、大きな揺れでガラスが飛散した際など逃げるには、素足よりは靴やスリッパがあると安心である。

3.11の直後は震災のことで頭が一杯だったはず。しかし、時が経つにつれ段々とその意識は薄くなってきているのが現状ではないか。あの時の意識を決して風化させてはいけないと思う。備えあれば憂いなしという言葉通り、日々

の暮らしの中で備えられることは万全を期していただきたい。図上訓練なども地域の皆さんで定期的に行い、意識を高めてもらいたい。防災のことについて意見交換する場を持つのも大変効果的であろう。行政としても最大限の対策を講じ対応させてもらうが、一番大切なのは地域の皆さんの力である。このことは、一人でも多くの方に伝えていってもらいたい。

- ◆3.11の津波で助かった人は日頃から防災訓練に参加していた人と聞いた。先ほど道路の話があったが、大地震の際には市内道路を封鎖するなどのふじみ野市独自の方策を立てておいた方が良いのではないか。緊急車両以外は通れないような方策が必要だと思う。それと、さくら通り線の今後は。上福岡駅付近の開かずの踏み切りの今後はどうなっていくのか。橋を架けるような話を聞いたことがある。どうなっているのか。シルバー人材センターの総会で市長はシンクタンクを作りたいと話していたが、どうなっているのか。それから、これまでの歴代の市長にはなかった姿勢として、大きな総会などに呼ばれていった際には、そこで今日のような意見交換する機会をつくるようにしたらどうか。

☆道路については地域の実情に応じた、365日、24時間動き続けている市民生活に沿ったものを造っていききたい。課題は多々あるが、非常事態の対応を含めた道路整備をしていききたいと考えている。桜通り線については進んでいない。防災道路ということで、かつて私が議員時代に賛成した案件だが、政権が変わる中、事業が進められなくなりあの状況になっている。東西連絡道路についても、事業認可までこぎつけていたが、これも合併直後に起きた政権交替により事業凍結。私が市長になった時は既に中止せざるを得なかったのが現実であった。かといって地下道で65億円かかる事業である。橋を架けるにも難しい。お金が無い分、知恵を絞っていかなければならない。シルバー人材センターの時にご挨拶した件については、市内23%の高齢化率で約23,000人の方々に生きがいを持って暮らしてもらえることが何より大切であるため、そのスキルを活かしていただきたいとの思いから発言させていただいた。ただ、我が市の健康志向はかなり強いことが、特定健診の受診率でも伺える。県下ナンバー1という受診率を誇っている訳だが、今後において必ずこのことが医療費に反映されるであろうと専門家は言っている。生涯現役の気持ちを持ち続け、それぞれのスキルを多いに活かしてもらいたい。シンクタンク自体はなかなか設置するところまでいってないが、マニフェスト全体の進捗率としては75%程度の達成度である。その間に3.11が起これ、それ以降も新たな行政課題が生まれている。ふじみ野市の予算が300億と言っても、皆さんのご家庭の財布の中身と同じである。貧しくても子どもや高齢者のため必要なお金は使っていかなければならない。

- ◆民間人のブレーンをうまく活用していった方が良い。

☆一般市民のシンクタンク的なものは存在している。

- ◆先ほどの災害時の道路の話で、結局、麻痺したときは警察の指導下となる。

☆消防団も交通整理はできない。緊急時に警察が居ない交差点のことについても

対応を考えていく必要がある。

◆3.11は金曜日だった。あの翌日の土曜日に市役所に行ったら大勢の職員がくらし安全課に集まっており、朝の朝礼をやっていた。さすがだと思った。対策本部のメンバーはどれぐらいで構成したのか。

☆あの時は計画停電への対応や帰宅困難者への対応もあったので、多くの職員で休日も組織体制を組んだ。また、当日の夜から翌朝にかけて保育所に迎えに来られない保護者への対応などもあった。電話は一切通じない、マンションに水が供給できないなど、さまざまな事態が次から次へと起こったため、私もあの直後3日間で何時間かしか自宅に帰っていなかった。その後、震災対応で一ヶ月ほど休日出勤の態勢をとっていた。

◆太陽の家の使い方について、独占的に使っている人達への対応を考えてもらえないか。あるいは、有料扱いにしてはどうか。

☆その行為に対してというより、そろそろ受益者負担を求めていかなければならない時代に入ってきているかもしれない。水道事業も逆鞘で料金をいずれ上げなければならないと思っている。介護保険料も今年度仕方なく引き上げたが、毎日のように苦情の電話をいただいた。これも今まで、上げなくてはいけない時に少しずつでも上げて来なかったもので、今回、しわ寄せが来て上げ幅が大きくなってしまった。このままでは若者にどんどん負担がかさんでしまうので、社会全体が家族という思いで皆さんにはお願いしたい。